

## 5.1. 音韻

著者	小西 いずみ, 竹田 晃子
雑誌名	方言の形成過程解明のための全国方言調査 : 「事前研究」報告書
ページ	19-35
発行年	2011-03-31
シリーズ	国立国語研究所共同研究報告 ; 10-03
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00002632">http://doi.org/10.15084/00002632</a>

## 5.1. 音韻

小西いずみ・竹田晃子

### ①概要

準備調査の音韻項目は、下の表のとおり、項目数 16・質問数 32 である。いわゆる「なぞなぞ式」質問により分析対象語の発話を得るものが主だが、項目によっては弁別意識を直接問う質問もある。

	音韻項目名	No.	分析対象番号	分析対象
母音	1. 単母音 (イ・エ: 語頭)	(1)	JP-13-a	胃
		(2)	JP-13-b	絵
		(3)	JP-13-c	「胃」と「絵」(意識)
	2. 連母音 (アイ)	(4)	JP-15 [JG-021]	(書いた)
	3. 連母音 (ウイ)	(5)	JP-16 [JG-081]	(着いた)
開合	4. 連母音 (オイ)	(6)	JP-17 [JG-028]	(研いだ)
		(7)	JP-14-a	楊枝(開音)
		(8)	JP-14-b	用事(合音)
		(9)	JP-14-c	「楊枝」と「用事」(意識)
子音	6. ガ行鼻濁音	(10)	JP-01	鏡
	7. 合拗音	(11)	JP-02	火事
		(12)	JP-03	元日・元旦
		(13)	JP-04	正月
	8. 語中子音の有声化 (カ行) (タ行)	(14)	JP-18 [JG-020]	(書かない)
		(15)	JP-19 [JG-009]	(開けた)
	11. セ(口蓋化)	(16)	JP-06	汗
		(17)	JP-07	背中
	12. 四つ仮名	(18)	JP-08-a	富士(フジ)
		(19)	JP-08-b	藤(フヂ)
		(20)	JP-08-c	「富士」と「藤」(意識)
		(21)	JP-09	鈴(スズ)
		(22)	JP-10	水(ミヅ)
	13. 一つ仮名	(23)	JP-11-a	知事(チジ)
		(24)	JP-11-b	地図(チヅ)
		(25)	JP-11-c	「知事」と「地図」(意識)
14. シ・ス	(26)	JP-05-a	寿司	
	(27)	JP-05-b	煤	
	(28)	JP-05-c	「寿司」と「煤」(意識)	
15. シ・ヒ (歯茎音・口蓋音)	(29)	JP-12-a	白い	
	(30)	JP-12-b	広い	
	(31)	JP-12-c	「白い」と「広い」(意識)	
16. * ザ行とダ行の交替	(32)	JP-20 [JG-013]	(座布団)	

次項(5.5.2)では、調査結果とそれについての考察や本調査に向けての課題を項目別に記す。調査結果は、回答を記号化(例えば問(1)「胃」で、回答[i], [i・], [i:]を“○”とする等)した表で示し、その凡例を表の下部に記す。必要に応じて回答語形や注などを記号の右や凡例に併記する。なお、一部項目名が準備調査調査票の項目名とは異なる場合がある。

また、従来の分布が分かる資料を「参考」として示し、一部その図を転載する。参考資料の略称は次のとおりである。

「音韻総覧」…『日本方言大辞典 下巻』所収の「音韻総覧」

L A J ……『日本言語地図』

G A J ……『方言文法全国地図』

②結果概観

[1] 単母音 (イ・エ : 語頭)

(1) JP-13-a 胃

(2) JP-13-b 絵

(3) JP-13-c 「胃」と「絵」(意識)

		胃(イ)	絵(エ)	「胃」と「絵」
01	秋田県秋田市	◎	◆	※
02	岩手県盛岡市	○	■	※
03	宮城県仙台市	●	■	※
04	山形県米沢市	●	◆	※
05	福島県会津若松市	■●◆	◆	0
06	栃木県さくら市	■	■	0
07	群馬県前橋市	○	■	※
08	埼玉県上里町	○	■	※
09	東京都品川区	○	■	※
10	東京都立川市	○	■	※
11	山梨県早川町	○	■	※
12	長野県松本市	○	■	※
13	富山県富山市	○	■	※
14	富山県砺波市	○	■	※
15	石川県小松市	○	■	※
16	京都府与謝野市	○	■	※
17	滋賀県高島市	○	■	※
18	京都府京都市	○	■	※
19	大阪府大阪市	○	■	※
20	和歌山県岩出市	○	■	※
21	兵庫県姫路市	○	■	※
22	徳島県徳島市	○	■	※
23	香川県東かがわ市	○	■	※
24	岡山県笠岡市	○	■	※
25	広島県三次市	○	■	※
26	山口県光市	○	■	※
27	福岡県福岡市	○	■	※
28	鹿児島県日置市	○	★	※
29	鹿児島県南九州市	○	★■	※
30	沖縄県那覇市	?○	'○	0 <small>(1声門閉鎖あり)</small>
31	沖縄県石垣市	○	○	※ア
	凡例	○ i, i <sup>h</sup> , i: ?○ ?i: ◎ ī ● ī ◆ e <sub>1</sub> ■ e	■ e, e <sup>h</sup> , e: ■ <sup>h</sup> e <sub>1</sub> ◆ e <sub>1</sub> ★ je ○ i: '○ 'i:	0 同じ ※ 違う ※ア ア クセントが 違う

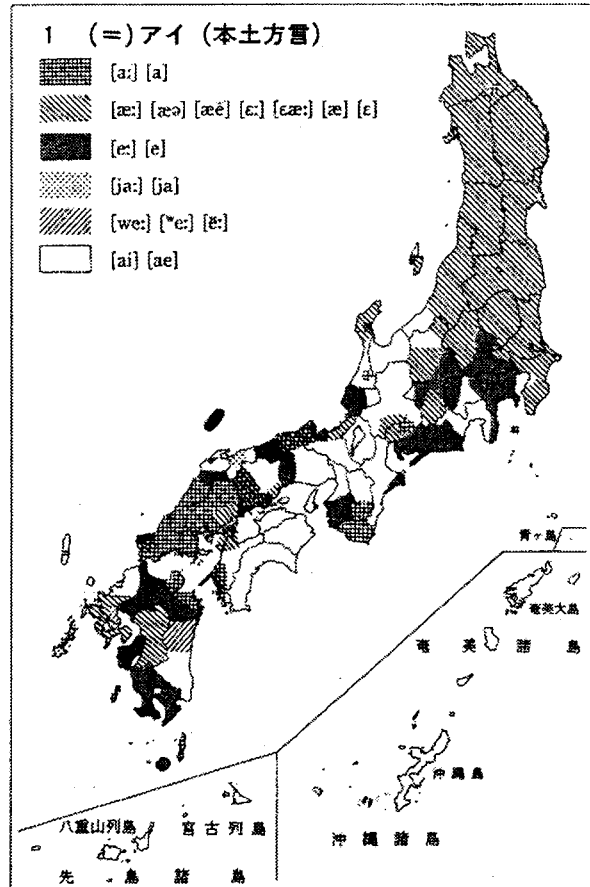
▶ 参考：「音韻総覧」イ・エ

- 「胃」「絵」の対立がないのは福島 [地点 05 ; 以下同様], 栃木 [06], 沖縄県石垣市 [31]。沖縄県那覇市 [30] でも母音は対立せず。この結果は話者の意識 (jp-13-c) と一致している。
- 秋田 [01] など東北の他地点では, 対立はあるが, 音声的にイが広め, または, エが狭め。
- 秋田 [01] で中舌のイ [ɪ] が現れる。
- 鹿児島 [28, 29] でエ [je] が現れる。
- 従来は北陸でも語頭のイとエの対立が失われる (あるいは音声的に近づく) 現象が見られたはずだが, 今回の結果から共通語化が進んだことがうかがえる。

[2] 連母音 (アイ)

(4) JP-15 [JG-021] (書いた)

		書いた (カイト)
01	秋田県秋田市	□
02	岩手県盛岡市	○
03	宮城県仙台市	○
04	山形県米沢市	○
05	福島県会津若松市	○
06	栃木県さくら市	○
07	群馬県前橋市	○
08	埼玉県上里町	○
09	東京都品川区	○
10	東京都立川市	○
11	山梨県早川町	○
12	長野県松本市	○
13	富山県富山市	○
14	富山県砺波市	○
15	石川県小松市	○
16	京都府与謝野市	○
17	滋賀県高島市	○
18	京都府京都市	○
19	大阪府大阪市	○
20	和歌山県岩出市	○
21	兵庫県姫路市	○
22	徳島県徳島市	○
23	香川県東かがわ市	○
24	岡山県笠岡市	○
25	広島県三次市	○
26	山口県光市	○
27	福岡県福岡市	○
28	鹿児島県日置市	▲
29	鹿児島県南九州市	▲
30	沖縄県那覇市	◎ katʃan
31	沖縄県石垣市	# kajutan
	凡例	○ kai □ kae <sub>i</sub> ▲ ke ▼ ke <sub>i</sub> ◎ ka # その他



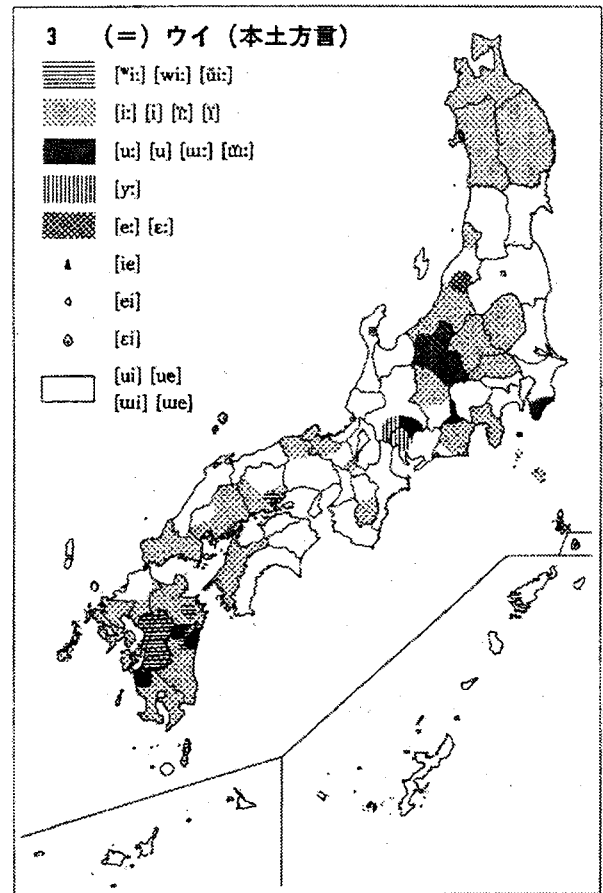
▶ 参考: 「音韻総覧」図1, GAJ41 図「書いた」

- 鹿児島 [28, 29] で融合形 [e]。(GAJでは東北～関東に広く、中部・東海にも散発的に [e:] [ɛ:] が分布。)

[3] 連母音 (ウイ)

(5) JP-16 [JG-081] (着いた)

		着いた(ツイタ)
01	秋田県秋田市	▼
02	岩手県盛岡市	○
03	宮城県仙台市	○
04	山形県米沢市	○
05	福島県会津若松市	○
06	栃木県さくら市	○
07	群馬県前橋市	○
08	埼玉県上里町	○
09	東京都品川区	○
10	東京都立川市	○
11	山梨県早川町	□
12	長野県松本市	○
13	富山県富山市	○
14	富山県砺波市	○
15	石川県小松市	○
16	京都府与謝野市	○
17	滋賀県高島市	○
18	京都府京都市	○
19	大阪府大阪市	○
20	和歌山県岩出市	○
21	兵庫県姫路市	○
22	徳島県徳島市	○
23	香川県東かがわ市	○
24	岡山県笠岡市	○
25	広島県三次市	○
26	山口県光市	○
27	福岡県福岡市	○
28	鹿児島県日置市	▲
29	鹿児島県南九州市	▲
30	沖縄県那覇市	▲ tʃitʃo : n/tʃitʃan
31	沖縄県石垣市	#sukutan
凡例		○ tsui, tsui □ twi ▲ tʃi, tʃi ▼ tsī・ # その他



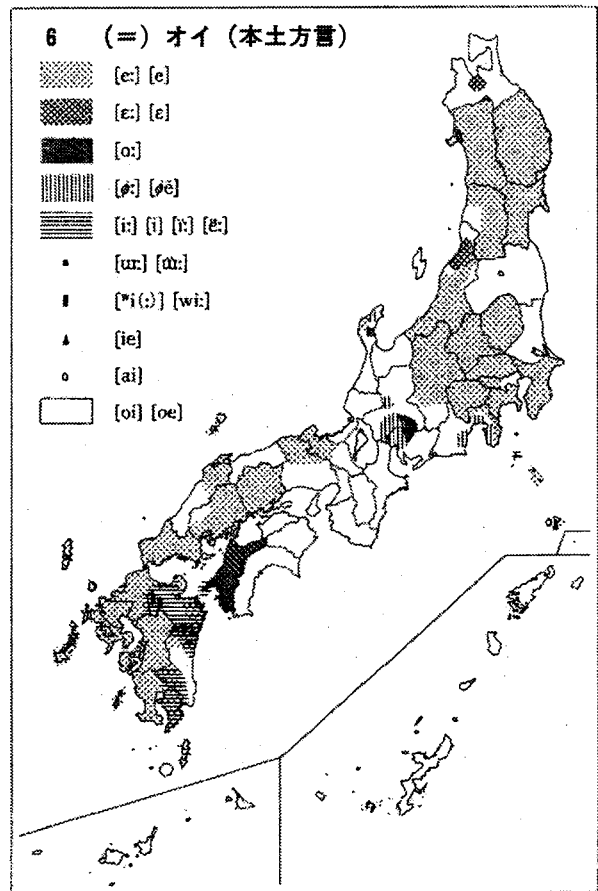
▶ 参考：「音韻総覧」図3

- 秋田[01]，鹿児島[28, 29]，沖縄県那覇市[30]で融合形 [i] [ɻ]。

[4] 連母音 (オイ)

(6) JP-17 [JG-028] (研いだ)

		研いだ(トイダ)
01	秋田県秋田市	□
02	岩手県盛岡市	○
03	宮城県仙台市	○
04	山形県米沢市	○
05	福島県会津若松市	○
06	栃木県さくら市	○
07	群馬県前橋市	○
08	埼玉県上里町	○
09	東京都品川区	○
10	東京都立川市	○
11	山梨県早川町	○
12	長野県松本市	○◇
13	富山県富山市	○
14	富山県砺波市	☆
15	石川県小松市	○
16	京都府与謝野市	○
17	滋賀県高島市	○
18	京都府京都市	○
19	大阪府大阪市	○
20	和歌山県岩出市	○
21	兵庫県姫路市	○
22	徳島県徳島市	○
23	香川県東かがわ市	○
24	岡山県笠岡市	○
25	広島県三次市	○
26	山口県光市	○
27	福岡県福岡市	○
28	鹿児島県日置市	▲
29	鹿児島県南九州市	★
30	沖縄県那覇市	◆ tud3an
31	沖縄県石垣市	# tugutan
凡例		○ toi □ toe <sub>1</sub> ☆ ton ◇ togī ▲ te ★ ten ◆ tu # その他



▶ 参考：「音韻総覧」図 6, GAJ45 図「研いだ」

- 鹿児島 [28, 29] で融合形 [e] (ただし、南九州市 [29] は [tenda])。 (GAJ では岡山と九州中南部にまとまって [e(:)]) が分布
- 長野 [12] で [topɪda], 富山県砺波市 [14] で [tonda] (連母音とは別問題; GAJ では青森・秋田に多いほか、長野・北陸に散在)。
- 2~4 の 3 項目とも著しく共通語化が進んでいるように見えるが、名詞や形容詞基本形語末ではどうか?

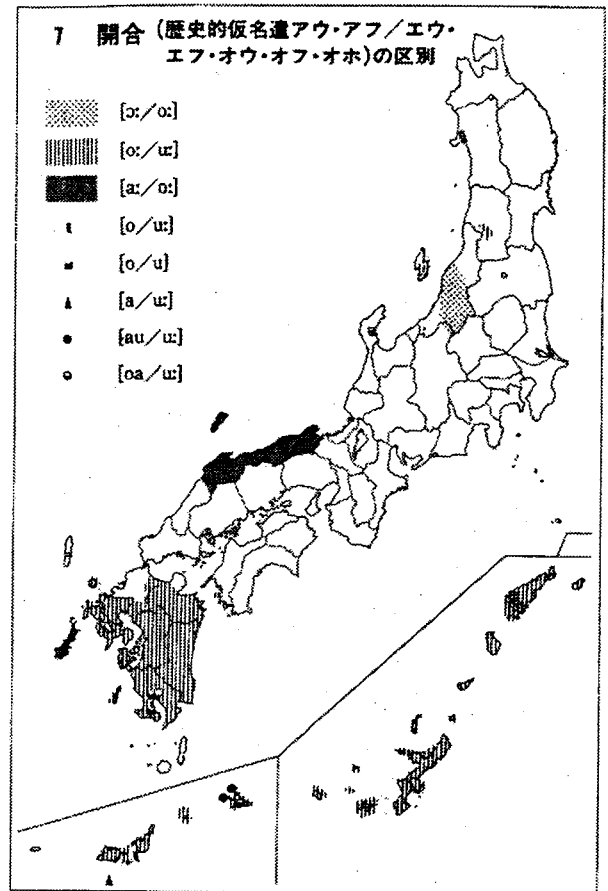
[5] 開合

(7) JP-14-a 楊枝 (開音)

(8) JP-14-b 用事 (合音)

(9) JP-14-c 「楊枝」と「用事」(意識)

		楊枝 (ヨージ)	用事 (ヨージ)	「楊枝」と 「用事」
01	秋田県秋田市	○	○	0
02	岩手県盛岡市	○	○	※
03	宮城県仙台市	○	○	0
04	山形県米沢市	○	○	0
05	福島県会津若松市	○	○	0
06	栃木県さくら市	○	○	0
07	群馬県前橋市	○	○	0
08	埼玉県上里町	○	○	0
09	東京都品川区	○	○	0
10	東京都立川市	○	○	0
11	山梨県早川町	○	○	0
12	長野県松本市	○	○	0
13	富山県富山市	○	○	0
14	富山県砺波市	○	○	0
15	石川県小松市	○	◇	※
16	京都府与謝野市	○	○	0
17	滋賀県高島市	○	○	0
18	京都府京都市	○	○	0
19	大阪府大阪市	○	○	0
20	和歌山県岩出市	○	○	0
21	兵庫県姫路市	○	○	0
22	徳島県徳島市	○	○	0
23	香川県東かがわ市	○	○	0
24	岡山県笠岡市	○	○	0
25	広島県三次市	○	○	※(ア)
26	山口県光市	○	○	0
27	福岡県福岡市	○	○	0
28	鹿児島県日置市	○	▲	※
29	鹿児島県南九州市	○	▲	※
30	沖縄県那覇市	○	●	※
31	沖縄県石垣市	○	●	※
凡例	○ jo <sup>h</sup> , jo:	○ jo <sup>h</sup> , jo: ◇ jow ● ju: ▲ ju	0 同じ ※ 違う, ちよつと 違う ※(ア) 違う(調 査者注: アクセント)	



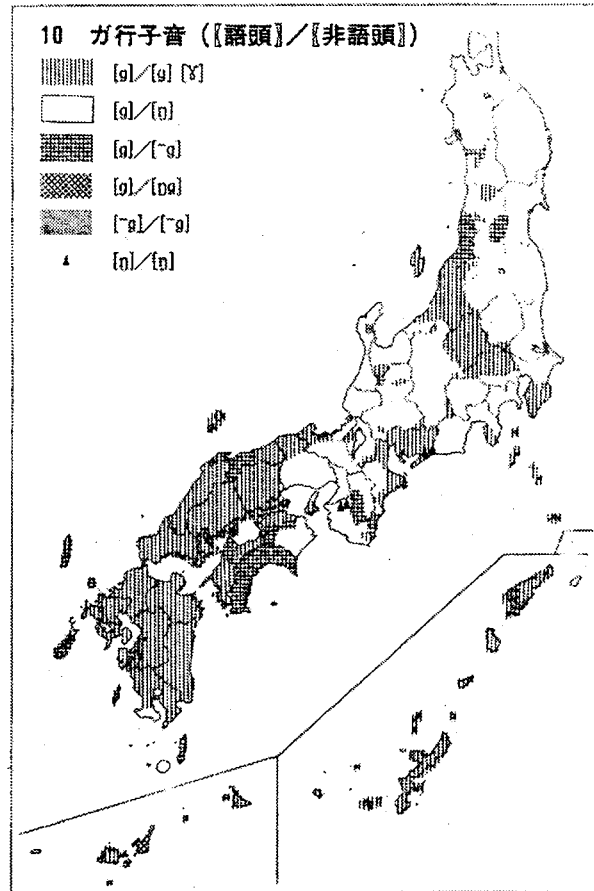
▶ 参考：「音韻総覧」図7

- 鹿児島 [28, 29], 沖縄 [30, 31] で, [o:] 対 [u(:)] という対立がある。意識の上でも区別あり。
- 石川 [15] で「用事」が二重母音 [ow] となり, 意識上も「ちよつと違う」とされるが, 開合の区別とは無関係か。
- 岩手 [02] で「違う」と意識されているのはアクセント上のことか。
- 従来対立があるとされてきた他の地域 (新潟県中越地方, 山陰, 九州中南部) は今回対象となっていない。



[6] ガ行鼻濁音  
(10) JP-01 鏡

		鏡(カガミ) ガの子音
01	秋田県秋田市	●
02	岩手県盛岡市	●
03	宮城県仙台市	●
04	山形県米沢市	●
05	福島県会津若松市	●
06	栃木県さくら市	●
07	群馬県前橋市	○
08	埼玉県上里町	○
09	東京都品川区	●◇
10	東京都立川市	●
11	山梨県早川町	●
12	長野県松本市	●
13	富山県富山市	●
14	富山県砺波市	●
15	石川県小松市	●
16	京都府与謝野市	○
17	滋賀県高島市	○
18	京都府京都市	○
19	大阪府大阪市	◇
20	和歌山県岩出市	●
21	兵庫県姫路市	●
22	徳島県徳島市	○
23	香川県東かがわ市	●
24	岡山県笠岡市	○
25	広島県三次市	○
26	山口県光市	○
27	福岡県福岡市	○
28	鹿児島県日置市	○
29	鹿児島県南九州市	●
30	沖縄県那覇市	○
31	沖縄県石垣市	▲
凡例		● ɲ ▲ ɲɡ ○ ɡ ◇ ɣ



▶ 参考: LAJ1 図「鏡」, 同2 図「蔭」, 「音韻総覧」 図 10

- 分布はおおよそ従来と変わらない。ただし近畿で非鼻音化が進んでいる。
- 南九州市 [29] の [ŋ], 石垣 [31] の [ɲɡ] は LAJ と一致。後者は語彙的なものか (LAJ「蔭」は [g] [ɣ]。「音韻総覧」 p. 27 で、竹富島の鏡 [kaggan] を語彙的なものとする。)

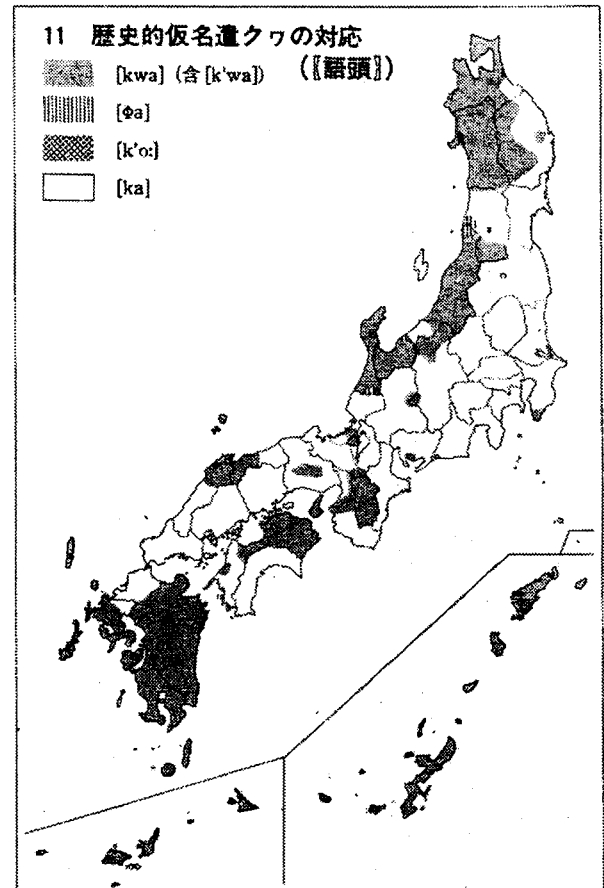
[7] 合拗音

(11) JP-02 火事

(12) JP-03 元日・元旦

(13) JP-04 正月

		火事 (カジ)	元日・ 元旦 (ガン〜)	正月 (ショーガツ)
01	秋田県秋田市	○	○	◎
02	岩手県盛岡市	○	○	◎
03	宮城県仙台市	○	○	◎
04	山形県米沢市	○	○	◎
05	福島県会津若松市	○	○	◎
06	栃木県さくら市	○	○	◎
07	群馬県前橋市	○	○	○
08	埼玉県上里町	○	○	○
09	東京都品川区	○	○	◇
10	東京都立川市	○	○	◎
11	山梨県早川町	○	○	◎
12	長野県松本市	○	○	◎
13	富山県富山市	○	○	◎
14	富山県砺波市	○	○	◎
15	石川県小松市	○	◎	◎
16	京都府与謝野市	○	○	○
17	滋賀県高島市	○	○	○
18	京都府京都市	○	○	○
19	大阪府大阪市	○	○	◇
20	和歌山県岩出市	○	○	◎
21	兵庫県姫路市	○	○	◎
22	徳島県徳島市	○	○	○
23	香川県東かがわ市	○	○	○
24	岡山県笠岡市	○	○	○
25	広島県三次市	○	○	○
26	山口県光市	○	○	○
27	福岡県福岡市	○	○	○
28	鹿児島県日置市	●○	●○	●○
29	鹿児島県南九州市	●	●	■
30	沖縄県那覇市	●	●	●
31	沖縄県石垣市	○	○	△
	凡例	○ ka ● kwa	○ ga ◎ ga ● gwa	○ ga ◇ ɾa ◎ ga △ gga ● gwa ■ gga

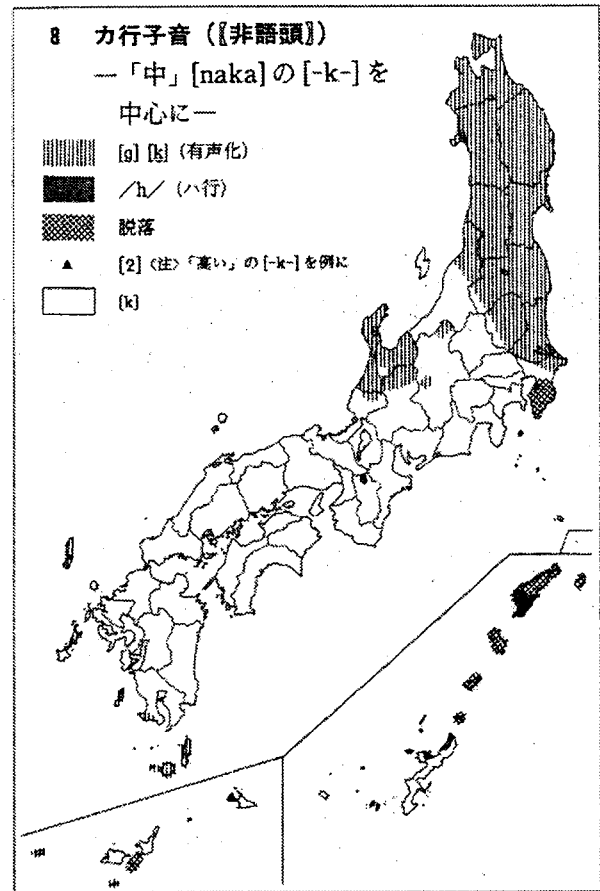


▶ 参考：LAJ3 図「火事」，同4図「西瓜」，同5図「元日」，同6図「正月」，「音韻総覧」図11

- 合拗音 [kwa] [gwa] を持つのは、鹿児島 [28, 29] と沖縄県那覇市 [30] のみ。
- LAJ で合拗音が現れる東北日本海側・北陸・山陰・近畿・四国等では現れず，共通語化が進んだことがうかがえる。

- [8] 語中子音の有声化（力行・夕行）  
 (14) JP-18 [JG-020]（書かない）  
 (15) JP-19 [JG-009]（開けた）

		書かない 2 拍目の子音	開けた 2 拍目の子音
01	秋田県秋田市	●	●
02	岩手県盛岡市	●	●
03	宮城県仙台市	●	[●]
04	山形県米沢市	●	●
05	福島県会津若松市	○◆	○
06	栃木県さくら市	●	●
07	群馬県前橋市	○	○
08	埼玉県上里町	○	○
09	東京都品川区	○	○
10	東京都立川市	○	○
11	山梨県早川町	○	○
12	長野県松本市	○	○
13	富山県富山市	○	○
14	富山県砺波市	○	○
15	石川県小松市	○	○
16	京都府与謝野市	○	○
17	滋賀県高島市	○	○
18	京都府京都市	○	○
19	大阪府大阪市	○	○
20	和歌山県岩出市	○	○
21	兵庫県姫路市	○	○
22	徳島県徳島市	○	○
23	香川県東かがわ市	○	○
24	岡山県笠岡市	○	○
25	広島県三次市	○	○
26	山口県光市	○	○
27	福岡県福岡市	○	○
28	鹿児島県日置市	○	○
29	鹿児島県南九州市	●	●
30	沖縄県那覇市	○	○
31	沖縄県石垣市	○	●
凡例		○ k ◆ k <sub>l</sub> ● g	○ k ● g [●] g (同席者)



▶ 参考：(力行)「音韻総覧」図8，(夕行) LAJ153 図「糸」，同154「糸」「井戸」の総合図

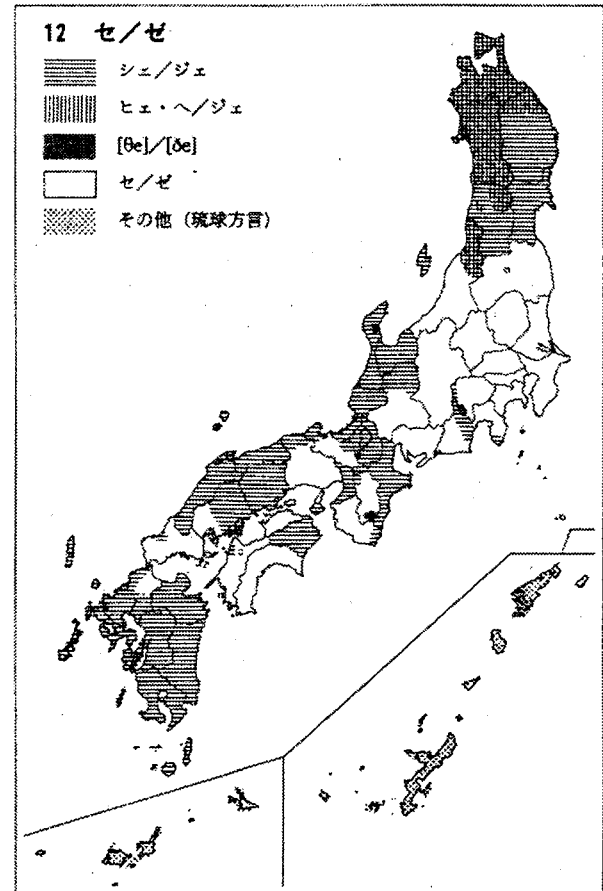
- 力行・夕行とも有声→秋田[01]，岩手[02]，宮城[03]，山形[04]，栃木[06]。鹿児島県南九州市[29]。力行のみ→福島[5]。夕行のみ→沖縄県石垣市[31]。
- おおよそ従来どおりの結果。

[9] セ (口蓋化)

(16) JP-06 汗

(17) JP-07 背中

		汗(アセ)	背中 (セナカ)
01	秋田県秋田市	○	▲
02	岩手県盛岡市	○	○
03	宮城県仙台市	○	○
04	山形県米沢市	○	○
05	福島県会津若松市	○	○
06	栃木県さくら市	○	○
07	群馬県前橋市	○	○
08	埼玉県上里町	○	○
09	東京都品川区	○	○
10	東京都立川市	○	○
11	山梨県早川町	○	○
12	長野県松本市	○	○
13	富山県富山市	○	○
14	富山県砺波市	○	○
15	石川県小松市	○	●
16	京都府与謝野市	○	○
17	滋賀県高島市	○	○
18	京都府京都市	○	○
19	大阪府大阪市	○	○
20	和歌山県岩出市	○	○
21	兵庫県姫路市	○	○
22	徳島県徳島市	○	○
23	香川県東かがわ市	○	○
24	岡山県笠岡市	○	○
25	広島県三次市	○	○
26	山口県光市	○	○
27	福岡県福岡市	○	●
28	鹿児島県日置市	○	▲(ヘキ)
29	鹿児島県南九州市	○	○
30	沖縄県那覇市	●	(同語形なし)
31	沖縄県石垣市	●	(同語形なし)
	凡例	● $\int i, \int i$ ○ se	● se ○ se ▲ he



▶ 参考:「音韻総覧」図12, LAJ:7 背中・8 汗 (語頭/非語頭の違いはほとんどないとされる)

- ほぼ全域で [se] が使われる。古音の残存と言われる [je] の分布が LAJ8 より衰退。
- [je] : 石川 [15], 福岡 [27]
- [he] : 秋田 [01]
- [ʃi] [ʃi] : 沖縄 [30・31]。[ʃi] は LAJ8 と一致。
- ただし、高知県は未調査。

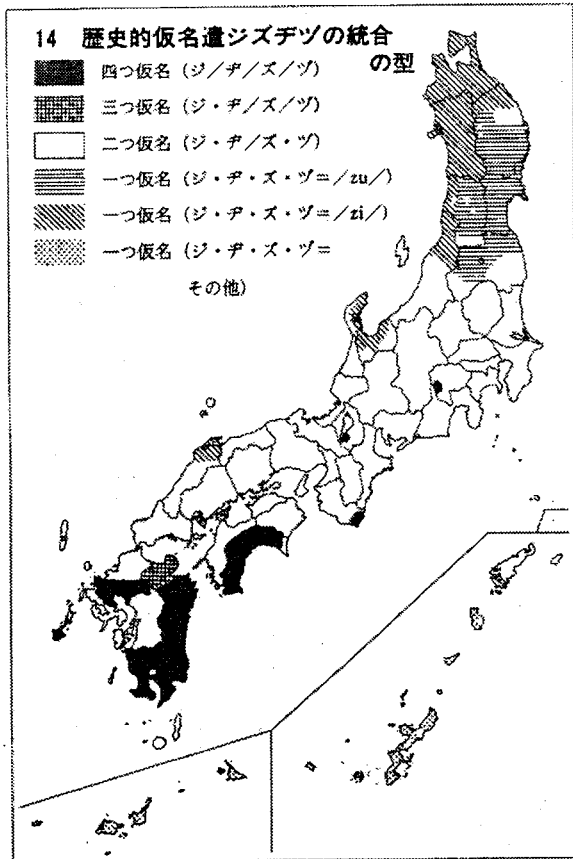
[10] 四つ仮名

- (18) JP-08-a 富士 (フジ)
- (19) JP-08-b 藤 (フチ)
- (20) JP-08-c 「富士」と「藤」(意識)
- (21) JP-09 鈴 (スズ)
- (22) JP-10 水 (ミヅ)

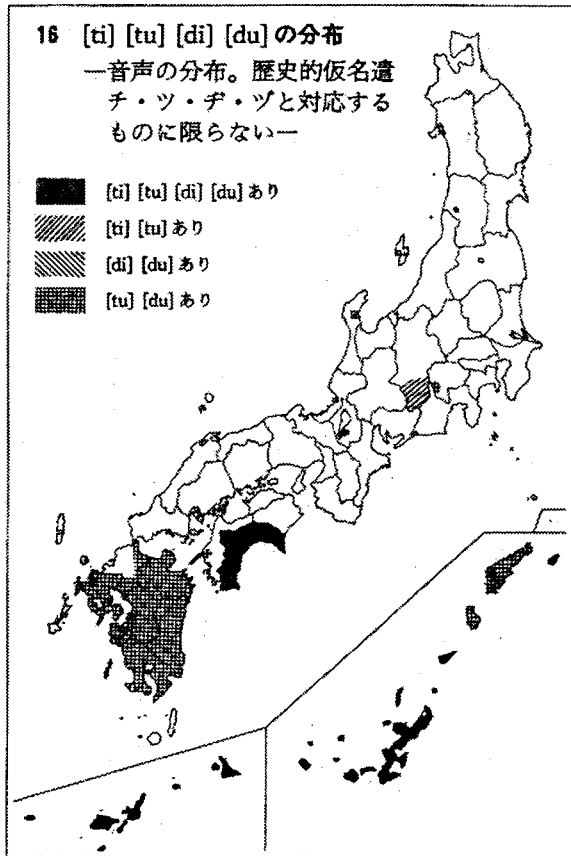
[11] 一つ仮名

- (23) JP-11-a 知事 (チジ)
- (24) JP-11-b 地図 (チツ)
- (25) JP-11-c 「知事」と「地図」(意識)

		四つ仮名					一つ仮名			
		富士 (フジ)	藤 (フチ)	「富士」と 「藤」	鈴 (スズ)	水 (ミヅ)	知事 (チジ)	地図 (チツ)	「知 事」と 「地 図」	
01	秋田県秋田市	▲	▲	0	▲	▲	▲	▲	※	01
02	岩手県盛岡市	□	□	※	○	○	□	○	※	02
03	宮城県仙台市	□ĩ	□ĩ	0	○	○	□dzĩ	○	※	03
04	山形県米沢市	□	□	0	○ũ	○ũ	□	○ũ	※	04
05	福島県会津若松市	□	□	0	○ũ	○	□d3ĩ	○ũ	※	05
06	栃木県さくら市	□	□	0	○	○	□	○	※	06
07	群馬県前橋市	□	□	0アク違	○	○	□	○	※	07
08	埼玉県上里町	□	□	0	○	○	□	○	※	08
09	東京都品川区	□	□	0アク違	○	○	□	○	※	09
10	東京都立川市	■	■	0	○	○	□	○	※	10
11	山梨県早川町	■	□	※アク違	△	◎	■	◎	※	11
12	長野県松本市	■	■	0	△	△	■	△	※	12
13	富山県富山市	■	■	0アク違	△	△	■	△	※	13
14	富山県砺波市	□	□	※アク違	○	○	□	○	※	14
15	石川県小松市	■	■	0	△	△	■	△	※	15
16	京都府与謝野市	■	■	0	●	○	■	●	※	16
17	滋賀県高島市	■	■	0	△	△	■	△	※	17
18	京都府京都市	■	■	0	△u	●w	■	△	※	18
19	大阪府大阪市	■	■	0	△u	△	■	△u	※	19
20	和歌山県岩出市	■	■	0	△	△	■	△u	※	20
21	兵庫県姫路市	□	□	0	○	○	□	○	※	21
22	徳島県徳島市	■	■	0	△u	△	■	△	※	22
23	香川県東かがわ市	■	■	0	△u	△	■	△	0	23
24	岡山県笠岡市	□	□	※アク違	○u	○u	□	○	※	24
25	広島県三次市	□	□	※アク違	○u	○u	□	○	※	25
26	山口県光市	■	■	0	△	△	■	△	※	26
27	福岡県福岡市	■	■	0アク違	△u	△	■	△	※	27
28	鹿児島県日置市	■□	■□	0	△u	?	■	△	※	28
29	鹿児島県南九州市	■	□	※	☆	?	■	●	※	29
30	沖縄県那覇市	□	□	0	○	○	□	○	※	30
31	沖縄県石垣市	■	■	0	△u	●i	■	△	※	31
凡例		□d3i, d3ĩ ■3i ▲zĩ	□d3i, d3ĩ ■3i ▲zĩ	0 同じ ※ 違う アク違: ア クセント が違うこ とについ ての注記	○dzu, dzũ, dzu △zu, zu ▲zĩ ●3w ☆su	○dzu, dzũ, dzu △zu, zu ▲zĩ ●3w, 3i ◎dw	□d3i, d3ĩ dzĩ ■3i ▲zĩ	○dzu,, dzũ, dzu △zu, zu ▲zĩ ●3w ◎dw	0 同 じ ※ 違 う	



参考: 「音韻総覧」 図 14



参考: 「音韻総覧」 図 16

《ジチズツの区別》

ジ, チ, ズ, ツ  
 富士, 藤, 鈴, 水  
 知事, 地図

		ジ/チ	ズ/ツ
01	秋田県秋田市	▲	▲
02	岩手県盛岡市	□	○
03	宮城県仙台市	□	○
04	山形県米沢市	□	○
05	福島県会津若松市	□	○
06	栃木県さくら市	□	○
07	群馬県前橋市	□	○
08	埼玉県上里町	□	○
09	東京都品川区	□	○
10	東京都立川市	■	○
11	山梨県早川町	■/□	△/◎
12	長野県松本市	■	△
13	富山県富山市	■	△
14	富山県砺波市	□	○
15	石川県小松市	■	△
16	京都府与謝野市	■	○
17	滋賀県高島市	■	△
18	京都府京都市	■	△/●
19	大阪府大阪市	■	△
20	和歌山県岩出市	■	△
21	兵庫県姫路市	□	○
22	徳島県徳島市	■	△
23	香川県東かがわ市	■	△
24	岡山県笠岡市	□	○
25	広島県三次市	□	○
26	山口県光市	■	△
27	福岡県福岡市	■	△
28	鹿児島県日置市	■□/■□	△/?
29	鹿児島県南九州市	■/□	☆/?
30	沖縄県那覇市	□	○
31	沖縄県石垣市	■	△/●

□ d3, ■ 3, ▲ z,  
 ○ dz, △ z, ● 3, ☆ s, ◎ d

- ほぼ全国的に二つ仮名が分布
- 四つ仮名: 山梨 [11], 鹿児島 [28・29]
- 三つ仮名: 京都 [18], 沖縄 [31]
- 一つ仮名は, 東北・北陸に分布していたが, 秋田 [01] のみ。
- [du]: 山梨 [11]
- 長野, 高知は未調査, 九州も未調査が多い。

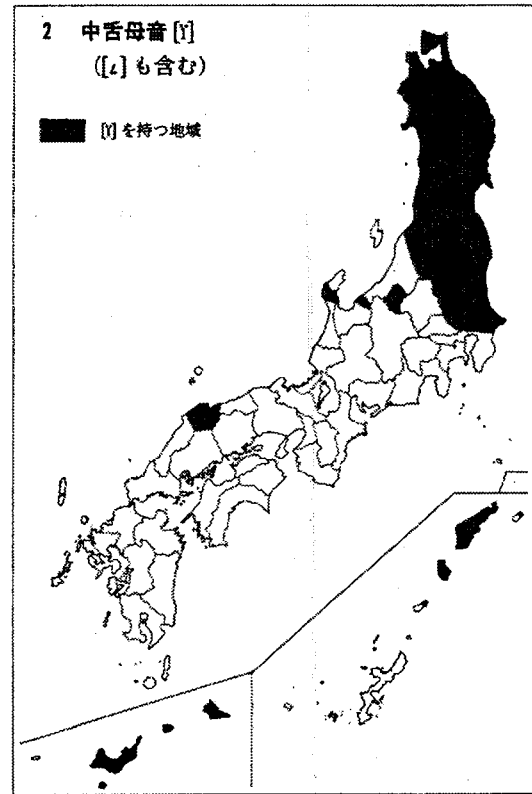
[12] シ・ス

(26) JP-05-a 寿司

(27) JP-05-b 煤

(28) JP-05-c 「寿司」と「煤」(意識)

		寿司 (スシ)	煤 (スス)	「寿司」と 「煤」
01	秋田県秋田市	▲	▲	※
02	岩手県盛岡市	□	○	※
03	宮城県仙台市	□	△	※
04	山形県米沢市	□ī	○w̄	※
05	福島県会津若松市	□ī	○w̄	0
06	栃木県さくら市	□	○	※
07	群馬県前橋市	□	○	※
08	埼玉県上里町	□	○	※
09	東京都品川区	□	○	※
10	東京都立川市	□	○	※
11	山梨県早川町	□	○	※
12	長野県松本市	□	○	※
13	富山県富山市	□	○	※
14	富山県砺波市	□	○	※
15	石川県小松市	□	○	※
16	京都府与謝野市	□	○	※
17	滋賀県高島市	□	○	※
18	京都府京都市	□	○	※
19	大阪府大阪市	□	○	※
20	和歌山県岩出市	□	○	※
21	兵庫県姫路市	□	○	※
22	徳島県徳島市	□	○	※
23	香川県東かがわ市	□	○	※
24	岡山県笠岡市	□	○	※
25	広島県三次市	□	○	※
26	山口県光市	□	○	※
27	福岡県福岡市	□	○	※
28	鹿児島県日置市	□	□ī	※
29	鹿児島県南九州市	□ī	□ī	0
30	沖縄県那覇市	(同語形なし)	□	(同語形なし)
31	沖縄県石垣市	□	▲	※
	凡例	□ si, sī, sī ▲ sī	○ sw, sw̄ ▲ sī □ si, sī △ sw	0 同じ ※ 違う



▶ 参考:「音韻総覧」図2

- 全体に、シ/スの対立がある
- シ/スの対立がないのは、秋田 [01]，鹿児島 [29] のみ。東北，九州に対立がない地点が残存。
- 意識において「同じ」と回答したのは、福島 [05] (発音は違う)，鹿児島 [29] (発音も同じ)
- 中舌母音は、山形 [04]，福島県 [05] (その他の地点は未調査) で回答。東北・琉球にあったが、減少傾向か。

[13] シ・ヒ (齒茎音・口蓋音)

(29) JP-12-a 白い

(30) JP-12-b 広い

(31) JP-12-c 「白い」と「広い」(意識)

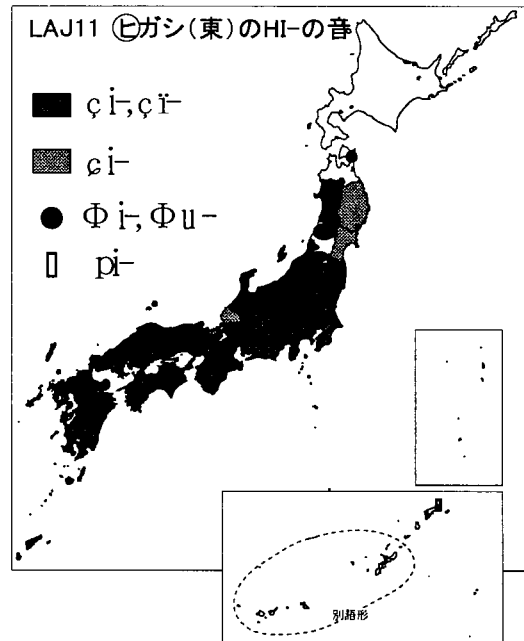
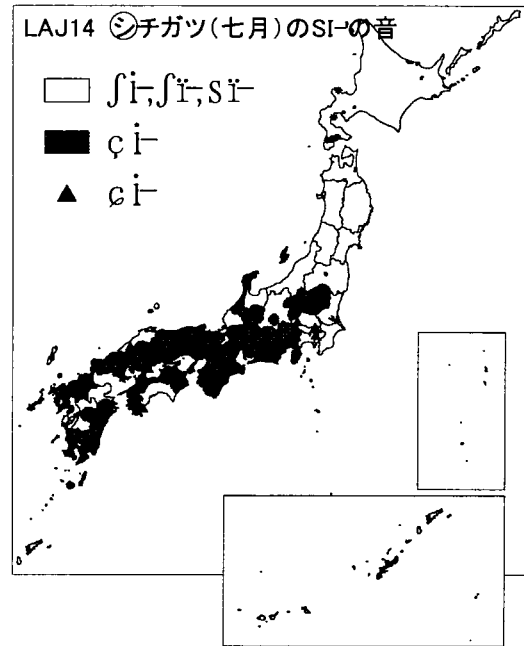
		白い (シロイ)	広い (ヒロイ)	「白い」と 「広い」
01	秋田県秋田市	●	◎	※
02	岩手県盛岡市	○	◎	※
03	宮城県仙台市	○	◎	※
04	山形県米沢市	○	◎	※
05	福島県会津若松市	○	◎	※
06	栃木県さくら市	○	◎	※
07	群馬県前橋市	○	◎	※
08	埼玉県上里町	○	◎	※
09	東京都品川区	○	◎	※
10	東京都立川市	○	◎	※
11	山梨県早川町	○	◎	※
12	長野県松本市	○	◎	0
13	富山県富山市	○	▲	※
14	富山県砺波市	○	◎	※
15	石川県小松市	○	◎	※
16	京都府与謝野市	○	◎	※
17	滋賀県高島市	○	◎	※
18	京都府京都市	○	◎	※
19	大阪府大阪市	○	◎	※
20	和歌山県岩出市	○	◎	※
21	兵庫県姫路市	○	◎	※
22	徳島県徳島市	○	◎	※
23	香川県東かがわ市	○	◎	0
24	岡山県笠岡市	○	◎	※
25	広島県三次市	○	◎	※
26	山口県光市	○	◎	※
27	福岡県福岡市	○	◎	※ <sup>ア</sup> 違
28	鹿児島県日置市	○	◎	※
29	鹿児島県南九州市	○	◎	※
30	沖縄県那覇市	○	◆	※
31	沖縄県石垣市	▲	◇	※
凡例	● si ○ fi ▲ ssohan(語全体) ◎ semai(語全体)	◎ ci ◆ phi ◇ pi ▲ semai(語全体)	0 同じ ※ 違う	

▶ 参考: LAJ 13 ヒガシ(東)-SI の音

LAJ 14 シチガツ(七月) SI-の音

LAJ 11 ヒガシ(東) HI-の音

LAJ 12 ヒゲ(鬚) HI-の音



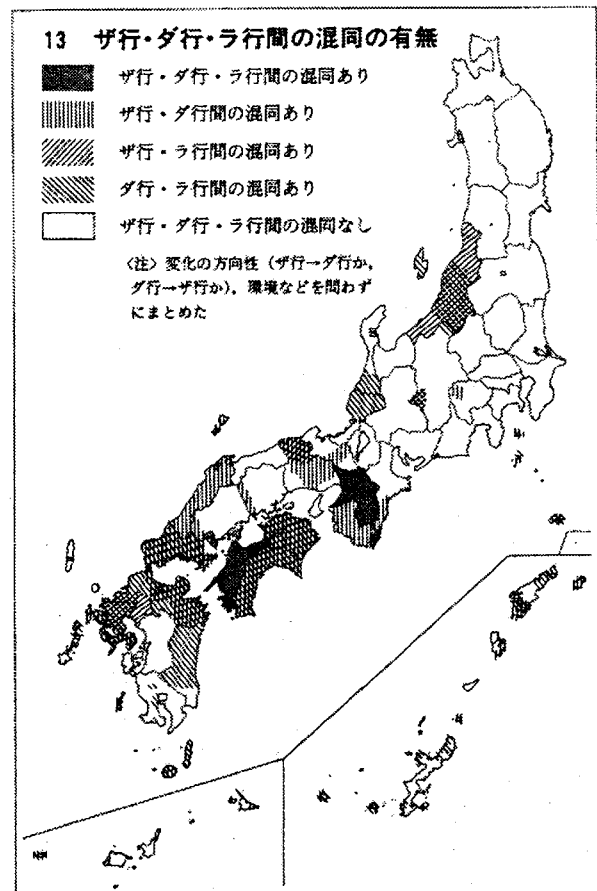
- 全地点で、シ/ヒの対立あり
- [si]: 秋田 [01] (白い): かつて東北全域に分布。
- 長野 [12], 香川 [23] の「同じ」は、「音声は違うが、音韻は同じ」ということか?
- 富山 [13] の [semai] は、「狭い」の誤回答か?
- SI-の音: 関東以南に分布した [ɕi] は皆無。
- HI-の音: 東北全域に分布した [fi] は皆無。
- HI-の音: 沖縄 [30] の [Phi] は残存。
- 未調査: 青森, 島根, 新潟。



[14] ザ行とダ行の交替

(32) JP-20 [JG-013] (座布団)

		座布団 (ザブトン)
01	秋田県秋田市	○
02	岩手県盛岡市	○
03	宮城県仙台市	○
04	山形県米沢市	○
05	福島県会津若松市	○
06	栃木県さくら市	△
07	群馬県前橋市	○
08	埼玉県上里町	△
09	東京都品川区	○
10	東京都立川市	○
11	山梨県早川町	△
12	長野県松本市	○
13	富山県富山市	△
14	富山県砺波市	NR
15	石川県小松市	△
16	京都府与謝野市	○
17	滋賀県高島市	△
18	京都府京都市	△
19	大阪府大阪市	△
20	和歌山県岩出市	●
21	兵庫県姫路市	○
22	徳島県徳島市	△
23	香川県東かがわ市	△
24	岡山県笠岡市	△
25	広島県三次市	○
26	山口県光市	○
27	福岡県福岡市	◆
28	鹿児島県日置市	△
29	鹿児島県南九州市	○
30	沖縄県那覇市	○
31	沖縄県石垣市	△
凡例		○ dza △ za ● da ◆ d3a



▶ 参考：「音韻総覧」図 13

- ほぼ全域に [dza] [za]
- ザ行・ダ行間を混同する地域は減少。
- [dza]：東北・関東に多く、西日本は京都 [16]、兵庫 [21]、広島 [25]、山口 [26]、鹿児島 [29]、沖縄 [30]
- [za]：関東北部(栃木 [06]・埼玉 [08])、富山 [13]、近畿(京都 [16]・滋賀 [17]・大阪 [19])、四国東部(徳島 [22]・香川 [23])、岡山 [24]、鹿児島 [28]、沖縄 [31]
- [da]：和歌山 [20]
- [d3a]：福岡 [27]

### 5.1.3. まとめ

以上の結果を、従来の方言音韻の保持・衰退という観点から整理すると、次のようになる。

(a) 従来の方言音韻・音声の分布がほぼ保たれている項目

6. ガ行鼻濁音（注）

8. 語中子音の有声化（カ行・タ行）

注：6（ガ行鼻濁音）については、近畿で非鼻音化が進んでいる。非鼻音化を新しい「共通語」特徴とみなせば、次の（b）にも分類できる。

(b) 非共通語的な音韻・音声特徴の分布域が狭くなり、共通語化が進んだ項目

1. 単母音（イ・エ：語頭）

2～4. 連母音アイ・ウイ・オイ

7. カ・ガ行合拗音

9. セ（口蓋化）

11～12. 一つ仮名，シ・ス

13. シ・ヒ（歯茎音・口蓋音）

14. ザ行とダ行の交替

(c) 特徴的な方言音韻・音声特徴を持つ地域が未調査で、結論を保留せざるを得ない項目

5. 開合

10. 四つ仮名

全体的にみると（b）の項目が多く、音韻面において著しく共通語化が進んだと言える。これも意味のある結果ではあるが、本調査の項目選定に際しては、この結果を、全国 500 地点で調査する意義があるかという観点から見直す必要がある。また、（c）の項目が生じてしまったことは、準備調査の地点選定の反省点である。

また、質問法という点から考えると、弁別意識を直接問う質問については、アクセントなど、焦点となる音韻以外の点に着目して「区別がある」と回答された場合があること、共通語と同じ体系を持つ地域のインフォーマントにはその質問の意図・意義が伝わりにくく、調査に対する否定的な態度にもつながりかねなかったこと、などの問題があった。この点も、本調査の項目・質問法選定において検討すべき課題と言える。